学校番号	１０１５

平成 31 年度　家庭科

教科	家庭	科目	子どもの発達と保育	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	子どもの発達と保育　（実教出版）						
副教材等	新課程　子どもの発達と保育学習ノート　（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

乳幼児の発達の特徴や、保育に関する知識と技術を実習を交えながら学びます。子どもの健全な成長を図る能力と態度がはぐくまれます。

実習は、本校でおこなう育児サークル「なるみっ子クラブ」や地域のこども園、和泉市の育児支援と連携して行う。

2　学習の到達目標

乳幼児の発達の特徴や保育に関する知識と技術を実習を交えながら学び、子どもの健やかな成長を支える能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	乳幼児の健全な成長について関心を持ち、かかわろうとする意欲や実際にかかわることのできる能力と実践的な態度を身につけている	乳幼児の発達と保育について、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。乳幼児のおもちゃの製作が適切にできる	乳幼児の保育の目標と指導の原理に基づく基本的な保育技術を身に付けている	乳幼児の発育･発達について理解するとともに、乳幼児の健全な発育･発達を促す生活についての知識を身につけている
評価方法	学習状況の観察 プリントの記述 育児サークル取り組み状況の観察 育児サークル自己および相互評価 その他の実習記録表 実習参加状況・態度 定期考査の結果　等	学習状況の観察 プリントの記述 育児サークル取り組み状況の観察 育児サークル自己および相互評価 その他の実習記録表 実習参加状況・態度 定期考査の結果　等	学習状況の観察 プリントの記述 育児サークル取り組み状況の観察 育児サークル自己および相互評価 その他の実習記録表 実習参加状況・態度 定期考査の結果　等	学習状況の観察 プリントの記述 育児サークル取り組み状況の観察 育児サークル自己および相互評価 その他の実習記録表 実習参加状況・態度 定期考査の結果　等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	子どもの発達の特性	「子どもの発達と保育」を学ぶにあたって 1章 子どもの発達の特性 1節 発達と乳幼児期の意義(1) 1 子どもの発達 2 乳幼児期の特徴 2節 発達と保育環境 1 発達と保育環境のかかわり 2 保育環境を整える 3節 児童観と発達観 1 児童観・発達観とは 2 こんにちの児童観・発達観 ・育児サークル実習	 ○ ○	 ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○	a: 人間の発達に関して興味・関心をもち、学ぼうとする意欲が見られる。 子どもに関する児童観や発達観を、知ろうとしている。 b:子どもの発達観について考察し、判断できる。 現代における発達観を知り判断することができる。 c: 自分自身の児童観・発達観を客観的に考察できる。 d: 人の一生を生涯発達としてとらえ、乳幼児が大切な時期であることを理解できる。 児童観や発達観に関する歴史的考え方を知識として身につけている。	学習状況の観察 プリントの記述 育児サークル取り組み状況の観察 育児サークル自己および相互評価 その他の実習記録表 実習参加状況・態度 定期考査の結果 等
	子どもの発達過程	2章 子どもの発達の過程 1節 子どもの発育 1 胎児の発育・発達 2 乳幼児の身体的特徴 3 乳幼児の生理的特徴 4 発育の評価 2節 子どもの精神発達 1 運動機能と感覚機能の発達 2 知的発達 3 言葉の発達 4 情緒の発達 3節 人間関係の発達 1 愛着関係の形成 2 人間関係の広がり 3 子どもの人格形成 ・育児サークル実習 ・こども園実習	 ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○ ○ 	a: 新生児期から乳幼児期までの身体的・生理的・精神的な発達の特徴について、意欲的に理解しようとする。乳幼児期における発達に関わる適切な対応の仕方を学ぼうとしている。 b: 子どもの発達には、人々との関わりを中心にさまざまな条件や要素が必要であることを理解し、その関わり方について考察することができる。 c: 乳幼児の発達の観点から、子どもの行動などを見て、子ども特有の行動パターンや感情表出などが推察でき、子どもの行動を理解することができる。 d: 人の一生を生涯発達としてとらえ、その中でも特に乳幼児が大切な時期であることを理解できる。	

後期	子どもの生活	3章 子どもの生活 1節 生活と養護(10) 1 生活と健康 2 栄養と食事 3 食習慣の形成 4 衣生活と育児用品 2節 子どもの遊び(5) 1 生活と遊び 2 遊びの援助 3節 生活習慣の形成(3) 1 生活習慣の意義 2 基本的生活習慣 3 社会的生活習慣 4節 健康管理と事故防止 1 日常の健康管理 2 病気の看病と予防 3 事故の防止と応急処置 ・育児サークル実習	○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○	○ ○ ○ ○ 	a: 子どもの生活全般（健康・食生活・衣生活・遊び・生活環境・病気・安全など）について、広く関心をもち、理解しようとする態度が見られる。 b: 子どもにとっての適切な生活の条件について考え、子どもの養護全般について応用することができる。 c: 子どもの生活を養護するために必要な技能を、教科書の資料（図・表）や実習（調乳・離乳食・幼児食等）を通して身に付けている。 d: 子どもの生活全般において、子どもが健康で安全に生活するために必要な、知識と技術を具体的な方法として身に付けている。	学習状況の観察 プリントの記述 育児サークル取り組み状況の観察 育児サークル自己および相互評価 その他の実習記録表 実習参加状況・態度 定期考査の結果 等
	子どもの保育	4章 子どもの保育 1節 保育の意義と重要性 1 保育とは 2 人間形成と保育 2節 家庭保育と集団保育 1 家庭保育 2 集団保育 3節 保育の方法 1 保育者の役割とは 2 指導のポイント ・育児サークル実習	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 	○ ○ ○ ○	a: 集団保育と家庭保育の観点から、子どもを保育する意義について学ぼうとする意欲が見られ、保護者として果たすべき役割などについて考えようとしている。 b: 集団保育・家庭保育、それぞれにおける場面での子どもとの適切な関わり方について理解を深めることができる。こども園への訪問実習を通して子どもの生活や行動などを観察し、客観的に分析し、それらをレポートなどの形式でまとめることができる。 c: こども園への訪問実習を通して、子どもの生活や行動などを観察し、客観的に分析できる。 d: 保育の意義や重要性について理解できる。 ・保育の場としての家庭保育と集団保育があることを知識として習得し、それぞれの特徴や役割を理解している。	

後期	子どもの福祉	5章 子どもの福祉 1節 子どもの福祉 1 児童福祉の理念 2 児童福祉に関する法律 3 児童福祉のための機関･施設 2節 子育て支援(3) 1 社会的支援の必要性 2 児童虐待とその予防 3 これからの子育て支援 4 子育て支援の課題 ･育児サークル実習	 ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ 	 ○ ○ ○	a: 人権の観点から、児童福祉に関する考え方や法律・制度・機関等について興味・関心をもっている。 b: 子どもを健やかに育てていくためには、具体的な施策が必要であることがわかり、今後の施策の方向性などを判断することができる。現代における子ども・子育てに関わる問題点や課題について自身の考えを述べることができる。 c: 現代における子ども・子育てに関わる問題点や解決について自身で情報収集することができる。 d: 児童福祉の考え方やそれに関わる制度を知識として習得している。それらを踏まえて、子どもや子育てを取り巻く問題点や課題にまで踏み込んで分析し、望ましい方向性について理解している。	

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。